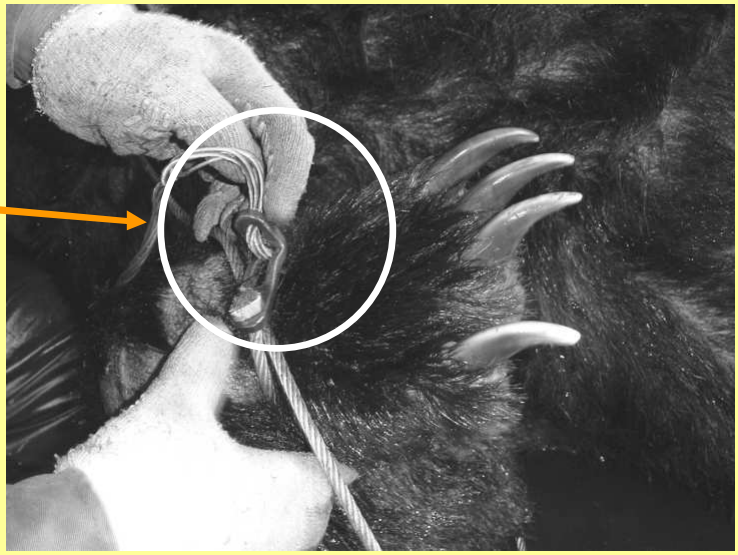
イ　ワイヤー

【捕獲熟練者の意見】

・直径 6mm 以上のワイヤーが望ましく、これ以下の径では切れる可能性がある。
・一般販売のワイヤーは、芯にナイロンや麻が使われていて強度が不十分である。また、ワイヤーの素材の鉄は固いと切れてしまうので、軟鉄のほうが良い。
・４分（直径 12mm）のワイヤーをほぐしたものが、丈夫で使いやすい。
・捕獲されたヒグマが暴れるうちに、ワイヤーがよじれることがある。

ワイヤーのよじれ
金具も曲がっている。



・頑丈なより戻しをつけてワイヤーのネジ切れを防ぐ。
・捕獲によって少しでも傷んだワイヤーは次回から使用しない。

（３）くくりわなの設置例

ア　前足のくくりわな

〈1〉　設置場所を決め、ヒグマの足の位置に深さ 10cm ほどの踏み板大の穴を掘る。

〈2〉　穴の位置に合わせて本体をセットする。

〈3〉　踏み板をセットする。

〈4〉　出没しているヒグマの足の大きさに合わせて、ワイヤーをセットする。

〈5〉　反対側のワイヤーを立木に固定する。

〈6〉　わなに土や葉をかけて隠す。近くの枝や丸太を利用して、ヒグマがわなを踏みやすい状況を作る。

〈7〉　安全装置を外して、設置完了。

イ　後ろ足のくくりわな（実際の現場ではなく、庭先で再現しています）

〈1〉　ヒグマが立ち上がって届く高さに、餌を固定する。周辺にも餌を置き、ヒグマに餌の味を覚えさせる。

〈2〉　餌を狙ったヒグマがちょうど立つ位置にくくりわなを設置する。木から約 30cm ぐらい離れた場所。

〈3〉　木にワイヤーを固定する。
(3)設置時の工夫の項参照

〈4〉　ワイヤーの内側に小枝を刺しておき、ワイヤーを誘導して、足首の上にかかるようにする。

〈5〉　ヒグマが餌に対して、正面から近づくように、周りに枝などの障害物を置く。

〈6〉　安全装置を外して、設置完了。

（4） くくりわな設置時の工夫

ア　固定の方法

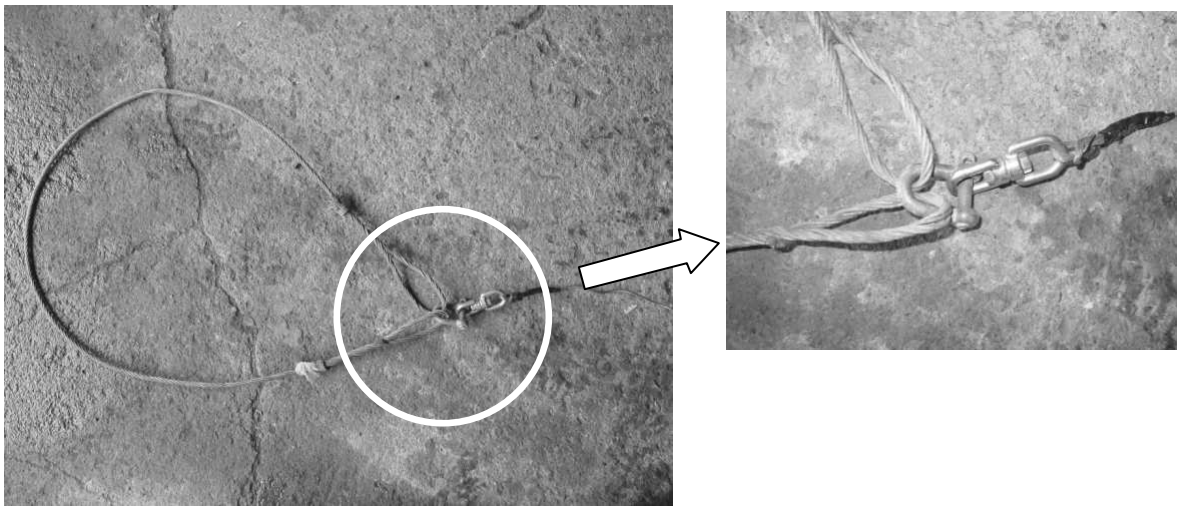
ワイヤーはなるべく太くてしっかりした立木に固定します。

【固定方法の例１】

ワイヤーがゆるまないように、D 型金具などできっちりと固定します。
あまりきつく巻きつけると、ヒグマが暴れたときにワイヤーが固定されて、切れる恐れがあるので、ゆるめに巻きつけます。

この捕獲熟練者の場合、近くに細い木が密生して生えているような場所では、ワイヤーを長めにしておきます。捕獲されたヒグマが暴れまわるうちに、周りの木が絡まり、最終的には身動きが取れなくなります。

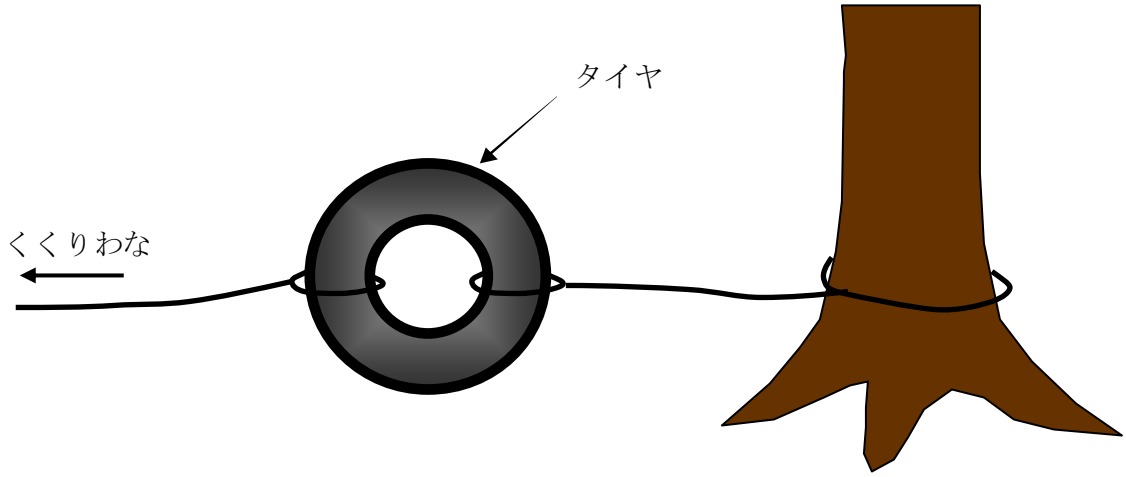
【固定方法の例２】



後ろ足くくりを行っている捕獲熟練者の固定方法です。ヒグマが木の周りを回っても、ワイヤーがからまないようにしています。また、途中により戻しをつけて、ワイヤーのねじれを防止しています。

【固定方法の例３】

ワイヤーが長くなる場合には、タイヤで中継して、ワイヤーに力がかからないようにする。



イ　設置場所の選定

くくりわなの設置場所を選ぶ上で一番大切なことは、一般の人が決して入ってこない場所を選ぶことです。そのうえで、最もヒグマが頻繁に利用している通り道を探します。

■ヒグマの通り道

【捕獲熟練者の意見】

- 警戒心の強いヒグマの場合、出没を繰り返す中で、何箇所も出入り口を作るので、早い段階でわなをかけるほうがよい。
- 被害箇所に近づくにつれて、出没経路が増えてくるが、少し離れたところでは経路が絞られるので、そうした場所を見つけて設置するとよい。
- 箱わなの餌にはついているが、警戒して中には入らない個体に対して、箱わなの回りにくくりわなをかけて捕獲した。
- 安全対策として同じ場所に 2 個かけて、足が 2 本かかるようにするのが望ましい。
- 設置場所を高くする、あるいは地面が高くなっているところに設置する。
- わなの手前に丸太を置き、丸太をまたいだところにわなを設置する。ただし、丸太が大きすぎると丸太に足をかけてしまうのでよくない。

ウ　警戒されないための工夫

ヒグマは非常に警戒心が強い動物です。捕獲熟練者の中には、ヒグマに警戒されないように、下記のような配慮や工夫をしている人もいます。

【捕獲熟練者の意見】

- **手袋をして、わなには素手でさわらない。**
- **できるだけヒグマの通り道を荒らさないように少人数で手早く作業をする。**
- **雨の日の前に作業をすると匂いが消えて良い。**
- **匂い消しとして、人が触れたところに蜂蜜を塗るとよい。誘引効果も得られる。**
- **オイル缶にスプーン１杯の割合で苛性ソーダを水に溶き、ワイヤーを煮る。その後、ナラの木の皮を煮出したもので、再度煮ると良い。ただし、煮すぎるとワイヤーが腐食してしまうので注意が必要**

エ　安全面の配慮

一般の人が近づかないように周囲に看板を設置します。また箱わなと同様に住所や氏名等を記載した標識を付けます。

（5） くくりわなの見回りと止めさし

くくりわなについては、必ず毎日早朝に見回りを実施します。また、日中に出没する可能性がある場所では、夕方にも実施します。

くくりわなを見回るときには、必ず銃を所持し、ヒグマが捕まっているものとしてわなに近づきます。実際にヒグマが捕まっているときには、人間が近づくとヒグマがうなり声を出したり、わなの周辺の草木が荒らされていたりするので、多くの場合はヒグマが捕まっていることに気付きますが、わなにかかったばかりで、静かに隠れていることもありますので、十分な注意が必要です。

また、ヒグマが捕まっている場合には、ヒグマが飛び掛ってくることもあります。そのため、あらかじめわなを固定した立木の位置とワイヤーの長さを正確に把握しておきましょう。その際、後ろ足にわながかかっていて、予想以上にヒグマが飛び出してくることもあるので注意が必要です。また、親子のうちのどちらかが捕獲され、周りに別のヒグマがいる可能性があることも頭にいれておきましょう。

こうした危険を考え合わせると、くくりわなの見回りについては、銃を所持した人が２名以上で実施するのが望ましいと言えます。

止めさしについては、急所である首を狙うのが最も有効です。ただし、ヒグマが動いていて正確に当てるのが難しいこともあります。弾が当たってヒグマが倒れても、すぐに近づくのは危険です。再度止めを撃ち、しばらく様子をみて、動かなくなったのを確認してから、十分に注意しながら近づきます。

■くくりわなでヒグマが捕獲されたときの周辺状況